

おこしやす、図書館へ

「図書館には本が無い？」

藤井 達也

前回の記事を読んで、図書館へ足を運んで頂けましたでしょうか。初めて図書館に来た人の感想の中に「図書館には本が無い。」というものがあります。確かに閲覧室には限られた冊数しか置いてありません。これだけを見て、本が無いと思ってしまうのですね。閲覧室のスペース的な問題で、これ以上置けないのです。でもご安心下さい。本は沢山あります。どこかに隠してある訳ではありません。書庫に並んでいるのです。図書館の蔵書は約47万冊です。47万冊と言われても、なかなかピンと来ませんね。仮に全蔵書を4年間で読破しようとするれば、毎日（1日も欠かさずに！）約320冊も読まねばならない勘定になります。これだけでも、本の多さがお判り頂けるのではないかと思います。しかも蔵書はどんどん増えているのです。論より証拠、実際に見てみることをおすすめします。

書庫に入ることを「入庫」と言いますが、手続きは簡単です。カウンターで学生証を提示して下さい。手荷物がある場合には書庫に持ち込めませんので、ロッカーの鍵を受け取って下さい。初めて入庫する際には、係員にその旨を告げて下さい。書庫は広いので迷ってしまいますから、案内してもらうのが得策です。書庫に入ると固定書架や移動書架に並べられた膨大な数の本に、大抵の方は驚かれます。是非、これを体感してみてください。入庫をしたら、もう「図書館には本が無い」なんて思わなくなることを、請け合いです。ご利用をお待ちしています。

ふじい たつや（図書館係長・司書）

10月のピックアップコーナー

『ワイン』

お酒にも色々な種類のものがあります。中でも最も奥が深く、用途が広いのが今回紹介する「ワイン」です。ワインは他のお酒と同様に、単に酒屋で取り扱われているだけでなく、一般のスーパーやコンビニエンスストアでも販売されています。値段も安価で、一升瓶入りのものでも、一番安いもので300円の値段で手に入れます。このように一般人が簡単に購入できるワインもあれば、中にはブルゴーニュ産など名産のワインで1本10万円もの価格がつくという、非常に希少価値の高いものも存在します。当然、これほど高価なワインだと、やはり一般のワインとは味やコクも異なる様です。しかし、実際にその違いを見極めるのは難しく、高級ワインに精通した芸能人の方でも、その違いを見極めるのは至難の業だそうです。

ワインについての解説が少し長くなりましたが、今は秋、葡萄の盛り。葡萄と言えば当然ワイン。今回のピックアップは、ワイン関係の図書。ワインの美味しさだけでなく、図書の中に広がるワインの世界も堪能して頂ければ幸いです。

情報サービス課 稲垣 宏行

